

はじめに

我々を取り巻く環境は日々刻々と変化をしており、技術革新や経済、エネルギー問題等、世界規模での重大変革期にあります。このような社会情勢の中で、本法人設置学校である芝浦工業大学を中心に、学生・生徒のための学校経営を堅持し、建学の精神に基づく教育活動および研究活動の展開、将来にわたり日本の持続的な発展を担っていく理工学系人材を育成するその責務は、一層大きくなっています。理事会は芝浦工業大学（以下本学という）が創立100周年を迎える2027年に『我が国の理工学系私学としてトップの社会的評価を得る』という中長期目標のもと、引き続き2018年度も教職員一丸となり、この実現に向け全力で取り組む所存です。

創立91周年にあたる本年度は、次に続く創立100周年を見据えた新たなスタートの年と捉え、諸施策の実施に努めます。重点施策テーマは、SGU事業の推進とその全学的な支援体制構築、豊洲第二校舎建設に向けた諸作業の推進、組織運営体制のより一層の強化、将来にわたり持続可能な財政基盤の確立、基幹システム更新による業務効率化の追求などであり、この実現に向け経営資源の戦略的投下を進めます。

2018年度事業計画

① 改革路線の継続

熾烈な大学間競争に勝ち抜き中長期の大目標を実現するには、迅速な意思決定と他大学に負けないスピードでの改革の実行が必要です。理事会では、引き続き改革路線を継続推進し、新しい価値創造のための経営イノベーションに継続して取り組みます。創立100周年に向けた改革路線を教職協働で進めます。

具体には、改革意思の継続性および経営イノベーションの推進をより一層強化するために経営組織構築方法の改善を継続して検討し実施します。そして改善改革のスピードアップには教職員のさらなる意識改革の促進が不可欠であり、FDS活動の推進、新しい職員人事給与制度の定着を図り組織の活性化を進め、基幹システムの更新により業務の効率化を図るとともに時代に即応した重点分野への人材の集中配分を実施します。

また学校法人の持続的な発展を維持するためには盤石な財務基盤の構築が大前提であり、引き続き中長期的な財政見通しをふまえた計画的な財政運営を図ります。その一つとして、豊洲第二校舎建設に向けて、第2号基本金の積み増しを行います。2011年度より実施している全学的な経費削減運動のほか、収入増につながる諸施策の検討、継続事業についても見直しによる経費の大幅削減、予算策定の手法や調達制度の見直しを含む抜本的な改革案を検討し実施します。

② 教育研究改革

本学は『社会に学び、社会に貢献する技術者の育成』を建学の精神として設立され、有為な人材を社会に送り出すことで高い評価を得ています。その考えを現代に敷衍した『世界に学び、世界に貢献する

グローバル理工学人材の育成』を目標に、2027年の創立100周年にも輝き続ける大学としての地位を維持し、さらなる前進を期して、学長のもと全学的な教職協働による大学改革運動を展開しています。これらの活動と国際交流活動の確かな実績などが評価され、2014年9月に文部科学省よりスーパーグローバル大学(SGU)に選定されました。

本学が目指すグローバル大学とは、世界水準の工学教育を教職学協働で進めることにあります。教育においては、「学生に何を教えたか」ではなく「学生が大学の教育で何を学んだか」、すなわち学修成果を大切にします。そして、常に学生視線に立った世界水準の教育の実践を行い、学生が主体的に学習に取り組めるアクティブ・ラーニングの推進を図ります。その一環として、学生が課題解決に自ら取り組むPBL型教育の体系的な導入を行います。本学は「アクティブ・ラーニングの推進」と「学修成果の可視化」をテーマとして、文科省の教育再生加速プログラム(AP)の支援を受けています。SGUとAP事業の全学的な推進をもって、本学の教育改革を進めていきます。

研究力の強化も重要です。教員は研究を通して自らを磨き、学生のよき見本とならなければなりません。世界の理工系大学では、先端研究の現場で学生を鍛えるということが常識となっています。このため研究センターの整備と大学院の充実を進め、大学院進学率も向上させます。豊洲キャンパスに最先端の研究設備を備えた共通機器センターとしてのテクノプラザを開設しましたが、その実質化を進め、研究活動の支援を活発化してきます。そして、組織的な研究支援体制を構築し、教員の外部研究資金の積極的な獲得を推奨します。世界大学ランキングを意識した論文件数の増加と、世界をリードできる研究分野の構築を進めていきます。また本学は地域との連携を大切にする事業である「地(知)の拠点整備事業」を獲得しています。世界レベルの研究とともに、地域に根差した研究も進めます。これら両輪をもって、研究力の高い大学を目指します。

SGUとして、外国人教員の戦略的採用、教職学協働による国際化とダイバーシティ(多様性の受容)の推進を積極的に推進していきます。その一環として、英語による講義数の拡大や留学生増を目指します。また文部科学省が推奨する国際理工学専攻と、システム理工学部を設置された海外留学を必修とする英語コースの充実拡大を進めます。

ダイバーシティには男女共同参画推進も含まれます。女性が活躍できる大学は、男性も力を発揮しやすい大学となるはずです。女性教職員および女子学生を増やすとともに、女性の活用を積極的に進め、女性が輝くことのできる理工系大学を目指します。

さらに本学の強みの一つである建築系学科の再編により誕生した建築学部では、グローバル化を視野に入れた世界水準の建築教育を進めます。

③ 学生募集とキャリア教育

少子化が進行する環境において、芝浦工業大学および併設各学校の入試においては、各校とも、近年、一定規模の志願者を堅調に獲得しています。特に大学においては過去最高の4万人を超える志願者を集めました。今期も引き続き各学校の志願者の安定確保と、より優秀な学生・生徒獲得のための施策を積極的に支援・展開します。大学においては、外国人留学生と女子学生の獲得に一層注力するとともに、総合的・多面的な入試を拡充し、学生募集におけるダイバーシティの充実・強化に取り組めます。

本学は「就職に強い大学」との社会的評価を得ており、近年の就職率は極めて高い水準の実績を残しています。また、高い就職率のみを追うことなく、いかに質の高い就職先であるかを重視し、学生が真

に希望する就職実現に向けたキャリア教育を展開していきます。我が子の自立を願う保護者の皆様の思いを真摯に受け止め、就職力向上のため学生の指導に尽力します。そのためには、入学時に自分のやりたいことは何なのかを学生に明確に意識させる必要があります。そして、自分のやりたいことのために学生は勉強に励まなければなりません。学生時代は人生で真剣に勉学に取り組む最後のチャンスであり遊んでいる暇はないという自覚も学生には必要です。

就職活動において、内定が決まりさえすればよいという安易な姿勢から脱し、より高い目標を設定し志望企業にチャレンジする強い気持ちを持つことが大切です。学生が有名で安定した企業を目指すのは当然のことです。志望企業への内定を早期に決めることができれば、卒業研究や修士論文に取り組んだり海外に出かけたりして自分の時間を有効に使えます。これらを実現するため、キャリアサポートセンター等が実施する各種キャリア教育を全面的に強化します。

さらに、芝浦工業大学校友会、芝浦工業大学後援会との連携を一層強固なものとし、学生の就職力向上、より質の高い就職実現に向け協力体制を構築します。これらの取り組みの充実は、学生自身に資すると同時に、本学のブランド力の強化につながります。

④ 学生支援の充実強化

芝浦工業大学校友会・後援会との連携による就職支援、学生課外活動支援や留学生を対象とした工場見学などの各種イベントの継続実施、学生満足度調査アンケートの結果をふまえ部署単位での改善運動を継続して実施します。また、SGUとして学生の海外留学への財政面を含めた積極的な支援と、TOEICスコアの向上を含めた学生の英語力強化を継続して支援します。

その他、SIT賞や課外活動奨励金など、学生の課外活動に関する支援にも引き続き力を入れていきます。引き続き、豊洲キャンパス近隣での学生寮整備を検討します。

⑤ 中高大連携強化と理系女子の育成

(芝浦工業大学附属中学高等学校)

2017年度より、高校から入学する生徒に対するさまざまな連携教育プログラムを開始し成果を上げつつあります。豊洲近接地への移転を機にこれまで行ってきた中高大連携をさらに強化し、特に大学学部と共同でのプログラム開発を進めていきます。また女子については、昨年4月に初めて入学した女子生徒が全員本学へ入学できるよう、大学と連携したキャリア教育の充実を図ります。

(芝浦工業大学柏中学高等学校)

昨年度に引き続き、柏中学高等学校と大学間で実施している中高大連携活動の現状を評価し、大学の研究室見学、学科紹介、オープンキャンパスへの参加等の活動を積極的に推進します。さらに生徒の要望などを踏まえ、ワークショップなどの開催を大学と連携して企画します。また女子生徒については、男女共同参画推進室との連携も視野に入れながら、社会で活躍する女性を講師に迎えてのキャリア教育を充実させます。

⑥ キャンパス施設設備の整備

豊洲第二校舎建設推進委員会、同事務局による豊洲キャンパス第2期計画実施の推進を図ります。大

学3キャンパスの有効的利活用と各キャンパスの防犯体制強化及び災害・防災・緊急避難時の対策・整備を継続的に行います。

⑦ 併設校強化

(芝浦工業大学附属中学高等学校)

2017年度新生から導入した2in1PCを中心とするICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践をさらに展開、高校生向けものづくり連携プログラム、英語の新カリキュラムなど、移転を機に展開する新たな教育内容を確実に実行します。また本学推薦決定者に対して、寄付金や基金を活用した英語力強化・プログラミング習得・海外留学プログラムの整備と拡大を行います。

(芝浦工業大学柏中学高等学校)

次期学習指導要領にて求められる新たな学びをふまえたSK学習ルーブリック(柏中学高等学校において修得すべきジェネリック・スキルの学習評価基準表)をもとに、各教科でアクティブ・ラーニングを実践・研究します。また、2015年度から新設した特待生制度や高校特進クラス(グローバルサイエンス)、2016年度から開始した中学特進クラス(グローバルサイエンス)を有効に機能させ、引き続き進学実績向上に努めます。

⑧ 地域貢献・社会貢献

これまで進めてきた地域や自治体と連携した教育・研究・社会貢献を一層進め地域コミュニティ、また産学官連携の中核的存在としての大学の機能強化を進めます。また2020東京オリンピック・パラリンピック成功に向け本学に設置した五輪連携委員会を中心に関係機関との協力連携を図ります。さらに、これまで行ってきた子どもから大人までの幅広い世代を対象とした生涯学習公開講座についても、本学の教育・研究成果を地域社会に還元し、また学びの場を提供することを目的に、継続実施していきます。特に建築学部の開設、附属中学高等学校の豊洲移転開校に合わせ、記念講座の開講や子ども向け講座を拡充します。

以上